連載…社長メッセージ

# 統合を成果へ、次の一歩をともに



社長　江頭秀起

皆さん、ご安全に。

4月1日の経営統合から、半年が過ぎました。新しい日鉄高炉セメントとして歩み始めてから、通常の仕事を進めながら、制度、システム、品質、営業、物流、設備など、様々な統合作業を行なっていただいています。北九州、室蘭、各支店、関係会社の皆さんに、改めて心から感謝します。統合というと、会社名や組織図が1つになることに目が向きがちです。しかし、本当の意味で1つの会社になるには、もう少し時間がかかります。異なる歴史と経験を持つ仲間が、互いの仕事や考え方を知り、良いところを認め合いながら、一緒に答えをつくっていく。その積み重ねが新しい会社の力になると私は考えています。

変化を目に見える形で示す取り組みの1つが、製品名の統一です。高炉スラグ微粉末は「エスメント」に、固化材は「日鉄アースタイト」に名称を統一しました。これまでスピリッツやソルスターに込められてきた技術と信頼を大切に受け継ぎながら、全国で同じ名前を掲げ、市場を広げてく取り組みです。名前を変えるだけなら簡単に見えるかもしれません。しかし実際には、各種マスター、伝票、パンフレット、品質書類、お客様への説明など、多くの準備が必要です。一つひとつは地道な仕事ですが、どれも欠かすことはできません。営業、品質保証、製造、物流、システム、各支店が連携して進めていることに感謝します。統一したブランドは単なる看板ではなく、「どの地域でも同じ安心をお届けする」という、私たちからお客様への約束です。

エスメントの北日本展開も、統合後の新しい挑戦です。北海道を含む北日本には、エスメントや高炉セメントの価値を更に伝えられる余地があります。設備、品質、製造、営業が一緒になり、サイロの使い方や供給体制、お客様の用途を1つずつ確かめながら、着実に進めたいと思います。西日本で培った販売や供給の知見を北日本へ、北日本の多品種製造や地域密着の経験を全社へ。お互いの違いを壁にせず、学び合う材料にしていきましょう。

技術面でも、部門や地域の境界を越えた挑戦を進めます。例えば、建材部門では旧両社の製品を組み合わせて、お客様の施工条件や課題に対して新しい答えをつくる試みがなされています。先日も、室蘭の研究施設を用いて、旧高炉社の材料試験を行いました。営業・技術のスタッフが確認している様子を私も見て、手応えを感じた次第です。安全性、施工性、品質、供給方法は丁寧に確かめつつ、営業が課題をつかみ、技術が配合を考え、製造と品質保証が再現性を支え、現場の声を次の改良へ返す。この循環で、私たちにしか生み出せない商品とサービスにつなげたいと思います。

新しい会社を支えるのは、何より人です。採用活動では、新卒採用、キャリア採用、障害者採用、インターンシップなど、多様な入口から仲間を迎える取り組みを進めています。採用は人事総務部門だけの仕事ではありません。会社の魅力は、現場で働く皆さんの姿、仕事への誇り、若手を育てる風土、困ったときに支え合う関係によって伝わります。入社した人が安心して力を発揮できるよう、声をかけ、仕事の意味を伝え、失敗から学べる環境を整えることまでが採用であり、人づくりです。皆さん一人ひとりが未来の仲間を迎え、育てる担い手です。

社内交流も、一体感をつくる大切な土台です。合同の営業会議や管理職研修、拠点間の訪問や対話を通じて、仕事の進め方や課題を共有する機会が増えています。西日本と北日本は距離が離れていますが、距離があるからこそ、意識して顔を合わせ、相手の事情を知ることが大切です。画面越しのリモート会議だけでなく、現場を見て、設備に触れ、そこで働く人の言葉を聞くと、同じ課題でも見え方が変わります。社内報「きるん」も、各地の工夫や挑戦、人の思いをつなぐ交流の場です。私も、私の投稿欄を利用して、皆さま方の取り組みの一端を可能な限り紹介したいと思います。

この夏の熊本地震は、私たちに事業継続と地域社会の一員としての責任を、改めて考える機会となりました。八代の出荷拠点では設備被害が生じました。酷暑の中、関係部門が現地確認や補修方法の検討、他拠点からの供給調整に取り組みました。限られた条件の中で、お客様への影響を少しでも抑えるために動いてくださった関係者の皆さんに感謝します。復旧は、安全を最優先に、現地の状況と関係機関と調整しながら進め、10月21日に震災後初となる船での荷揚げを行ないました。

会社としては、被災された方々への支援として、日本赤十字社を通じて義援金を拠出しました。私たちのセメントや固化材が復旧を支える場面もあります。地域の暮らしと社会基盤を支える会社として何ができるかを、これからも考え続けます。

当社を取り巻く環境は厳しく、国内需要の減少、エネルギー・物流・修繕などのコスト上昇、設備トラブルへの対応が続いています。それでも、カーボンニュートラル、資源循環、国土強靭化、インフラの長寿命化という社会課題の中で、高炉セメント類や建材製品をはじめとする当社製品には、確かな役割があります。鉄鋼副産物を有効活用し、社会を支える材料としては、私たちの届けることは、私たちの原点であり、未来への責任です。

統合の成果は、日々の仕事の中に表れます。ある拠点で見つけた設備改善を別の拠点にも広げる。営業先でいただいた声を技術や品質保証につなぐ。若手の提案を先輩が後押しする。こうした連携が重なるほど、会社の選択肢は広がり、変化への対応力も高まります。「自分の部門だけで終わらせない」「誰に伝えれば次の価値につながるかを考える」。当社の基本理念である「次世代のために今を築く」のとおり、そんな習慣を、全社の文化にしていきたいと思います。

同時に、挑戦を持続させるには、設備・操業をはじめとする足元の安定が欠かせません。設備や品質の異常を見逃さない、無理な作業をしない・させない、契約や手続きを確実に守る。厳しい収益環境にあっても、この基本を省略して近道を選ぶことはできません。トラブルが起きたときには誰かを責めるのではなく、事実を共有し、原因を掘り下げ、再発防止を他の拠点にも広げることが重要です。失敗を隠さず、次の学びに変えられる会社でありたいと思います。

私は今後も、室蘭に軸足を置きつつ、北九州や各支店、関係会社の現場にも足を運び、皆さんとの対話を重ねます。私自身、旧高炉社で11年間社長をやり先入観を持っている懸念もあります。だからこそ、私は数字だけで判断せず、現物を見て、背景を聞き、課題の本質を一緒に考えたいと思います。誰かの又聞きではなく、実務をされている方々の生の声を直接聞き、現場現物を直接この目で見たいと思います。皆さんからも、改善の提案、困っていること、他部門に知ってほしいことを、遠慮なく発信してください。対話は融和のためだけではなく、より良い判断を生むための大切な仕事です。

次の一歩は、統合を成果に変えることです。会議を合同にするだけでなく、知恵と情報を行き来させる。採用だけでなく、自走する人を育て、挑戦を支える。トラブルに対応するだけでなく、平時から設備に関する知見を共有し、トラブルを未然に防止する。製品名を揃えるだけでなく、拡販する。その積み重ねによって、お客様や地域の皆様から「統合して良くなった」「日鉄高炉セメントがあって良かった」と言っていただける会社を、皆さんと一緒につくっていきたいと思います。

安全、環境、防災、品質、コンプライアンスをすべてに優先する姿勢は、これからも変わりません。気づいたことを率直に伝え、相手の意見に耳を傾け、部門や拠点の壁を越えて助け合う。その日々の行動が、安心して誇りを持って働ける会社をつくります。統合会社の歴史は、まだ始まったばかりです。北から南まで1つのチームとして、それぞれの挑戦を会社の力に変え、次の成長へ踏み出していきましょう。ご安全に。

きるん

発行所
北九州市小倉北区西港町16
日鉄高炉セメント株式会社
編集兼発行者
大原和彦
印刷所
富士印刷株式会社

**無災害連続**

北九州　141日
室蘭　716日
10月30日 現在

**従業員数**

10月1日 現在
男子　310名
女子　51名
合計　361名
（うち、出向者9名）